

クマザサ熱水抽出物成分に関する基盤研究 —特に抗ウイルス作用について—

村山 次哉

北陸大学薬学部生命薬学講座 教授

イネ科植物の1つであるクマザサ（学名：*Sasa albomarginata*）は、日本や千島列島、サハリン島の一部に自生し、日本をはじめアジア諸国などでは古来より経験的に殺菌作用や防腐作用を持つ事が知られており、食べ物のラッピングの材料や伝統的な民間薬として用いられてきた。また、クマザサの水溶性画分から得られた成分が、抗腫瘍作用や抗炎症作用を有することが報告されている。最近このような生薬成分が持つ様々な生物活性を利用した補完代替医療が行われており、多くの研究報告があるが、抗ウイルス作用についての詳細な研究は少ない。

我々は、クマザサの熱水粗抽出物およびそこから分離・精製された成分である **tricin**（4',5,7-trihydroxy-3',5'-dimethoxyflavone）が抗ウイルス活性を示す事を見出し、報告してきた。特に **tricin** は DNA ウイルスのみならず、RNA ウイルスに対しても強い抗ウイルス活性を持つ事を明らかにした。さらにその作用機序は、**tricin** が宿主を刺激する事により様々な因子が宿主細胞から産生され、そのうちのある因子が間接的にウイルスの複製を抑制するという大変ユニークな作用機序により抗ウイルス作用を示すことを明らかにしてきた。

本講演では、このような補完代替医療薬から派生し明らかにされた成分・**tricin** の抗ウイルス活性の作用メカニズムと安全性、および新たな抗ウイルス薬剤としての可能性についてお話ししたい。